



新たな視点と発想で、まちをもっと元気に！

地域おこし協力隊

少子高齢化や人口減少という社会的な背景を踏まえ、総務省では

地域力の充実と強化を図るため、「地域おこし協力隊」による取り組みを行っています。都市部の人材を過疎地域などに受け入れ、地域おこしの新たな担い手になってもらうというもので、今回はいよいよ石狩市でも「地域おこし協力隊」が誕生するというお話です。

地

方の過疎化が今、とても深刻です。若者は仕事を求め、都市部に流出してしまい、地域の担い手となる人材の確保が大変難しくなっています。

しかし、一方では生活の質や豊かさへの志向の高まりを背景に、豊かな自然環境や歴史、文化などに恵まれた地域で生活することや地域社会へ貢献したいという、都市住民のニーズも高まっています。

こうした社会的背景を踏まえて総務省は、都市部の人材を過疎地域などで新たな担い手として受け入れ、地域力の充実と強化を図るための取り組みをスタートさせました。これが「地域おこし協力隊」です。

「地域おこし協力隊」の隊員は、ほかの市町村から移り住み、最長3年の任期でコミュニティ活動の支援や、地域資源の発掘など地域おこし活動を通し、最終

的にはその地域への定住を目指します。

石狩市が平成17年に市村合併してから、厚田区と浜益区では「地域協議会」を設置し、住民が主体となったまちづくりを進めてきました。しかし、人口減少と高齢化により、地域活動や産業の担い手不足が大きな課題となっています。

そこで新たな方法として、両区でもこの「地域おこし協力隊」を導入するかどうか、「地域協議会」の委員らを中心に議論・検討されました。その結果、地域活動を行っている住民の皆さんと一体になり、地域おこしを推進する人材として、今年から4人の隊員を受け入れることになったのです。

4

人の隊員たちは、厚田区では住民の皆さんや地域団体の皆さんと

もに地域資源を生かした地域おこし活動を企画・実践して行く予定です。また、浜益区ではコミュニティカフェ「カフェガール」の活動支援などを通じて、特産品開発などに取り組みます。

このほかにも、隊員の自由な発想で生まれる活動もあるでしょう。私たちが当たり前だと思っていたことや見過ごしていたことが、隊員には新鮮に映るかもしれません。新たな視点と発想で足元にある地域の宝に気づき、磨いていく。これが隊員に期待する役割です。

しかし、地域おこしは隊員だけでできるものではありません。隊員は引越してきたばかりで、地域のことを知りませんから、元々住んでいる地域の皆さんの力が必要です。隊員、住民の皆さん、そして市役所、みんなが連携して一体となって地域が本来持っている力を引き出し、生かしていくことが大切です。

ぜひ、地域を元気にするため、もっと魅力あるまちにするために、隊員の応援をよろしくお願いします！



まちづくりの新たな胎動をいち早くキャッチしてご紹介するシリーズ「まちづくり最前線」。
第14回は
〈地域おこし協力隊〉
について。



リポーター
企画課
門井 理恵

「地域おこし協力隊」Q&A

隊員は全国にどれくらいいるの？

全国318自治体に978人の隊員がいます(平成25年度)。うち北海道が最も多く、168人です。

ほかの市町村の隊員はどんなことをしているの？

例えばレストランで野菜の栽培から調理研究までを行い食を通じてまちおこしをしたり、古民家を活用して特産品を販売するマルシェを開催するなど、それぞれの地域特性に合った取り組みが実施されています。

隊員は任期が終わったらどうするの？

地域への定住を目指して、地元企業に就職・就農するほか、地元産物を活用した商品開発の会社を設立したり、カフェを始めるなど起業独立する方も。総務省の調べでは、約半数の隊員がそのまま地域に住んでいます。

私たちが「地域おこし協力隊」です!

ほかの地域から来た方ならではの新しい視点で、さまざまな地域おこし活動を行います。
新たな仲間として温かく迎え、ともにまちづくりを進めていきましょう!



厚田
ぬまくら ひとみ
沼倉 瞳さん(35)
採用日: 4/1
前居住地: 中札内村

私は十勝観光連盟と中札内村観光協会です。5年間、観光の仕事をしてきました。そこで感じたのは、もっと産業や教育、歴史など分野にこだわらず、それぞれの魅力を掛け合わせたい。まちなちの魅力は大きく、それが観光資源になるということ。だからこそ、これからは隊員としてさまざまな分野と関わり、皆さんを結びつけていくようなお手伝いがぜひしたいです。

厚田は、地域協議会や市民団体が活発で、住民によるまちづくりが盛んという印象があります。そんな活発な市民の皆さんと一緒に厚田を盛り上げられたいです。

私が生まれた神奈川県秦野市は、丹沢山脈の登山口のようなところ。だから私にとって厚田は、自然豊かな理想的な場所。農林漁業などさまざまな産業があるのも大変魅力的です。

まずは厚田にどんな仕事があるのか体験しながら、お手伝いさせてもらうことで、将来自分が厚田に定住する上でヒントにもさせていただきたいと思っています。

私はキャリアアンソナルタンクトを経て、北海道集落総合支援事業に関わり、地域での解決事例を知る方とのつながりもできました。そんな外からの目線が解決の糸口になるかもしれません。



厚田
こじま たくや
小島 拓也さん(39)
採用日: 4/1
前居住地: 江別市



浜益
たき かつ あき
瀧 勝明さん(47)
採用日: 5/1
前居住地: 静岡市

何度も旅行で訪れた大好きな北海道。そこで地域おこしに関わることができると知り、さらには札幌市に近い石狩市での事業ということに興味を持ち、応募しました。

以前は通信サービス事業会社で経営企画業務に携わっていましたが、浜益では私の経験のない農業・漁業を営む方々と交流できることを楽しみにしています。そこでいろいろな意見を聞きながら、地域おこしに役立てられたいです。

なお、私は雪がほとんど降らない静岡出身で、冬の暮らしを知らません。浜益の方にいろいろ教えていただきたいので、どうぞよろしくお願います。

私自身、22年間務めた教育出版社では、人と関わる経験を豊富にしてきました。そのため、新しくお会いする方とお話することが大好きです。

ここにはきっと浜益ならではの料理もあるでしょう。地元の方はいろんなものを手作りされていると思います。今までの生活ではあまりできなかったことなので、浜益の皆さんと関わる中で、いろいろ経験をしてみたいです。

静岡から来ましたので、浜益の皆さんにも静岡のことを知ってもらい、いずれは静岡からのお客様を浜益にも呼びたいですね。



浜益
たき えつこ
瀧 税子さん(44)
採用日: 5/1
前居住地: 静岡市